

# 第1期中期目標期間の 業務実績の概要について

---

平成16年4月 1日から  
平成20年3月31日まで

国立大学法人山形大学

# 1. 全体の状況

---

「自然と人間の共生」を21世紀のテーマとして中期計画を設定し、4年間にわたり人材育成の推進、社会との連携強化、評価結果の活用、事務機構改革等の様々な取組を推進した。

その結果、各年度毎の国立大学法人評価委員会の評価においても、年を追うごとに高い評価結果を得ている。

以上のことから

「全般的に中期目標の達成状況は良好である」

と判断している。

今後とも、これらの取組を継続し、本学の個性・特徴を色濃く打ち出していく。

---

## 2. 教育（特色的取組、優れた成果）

- 「エリアキャンパスもがみ」の活動をはじめ4件の現代的教育ニーズ支援プログラムの実践
- 大学院の高度化（医学系研究科生命環境医科学専攻、理工学研究科MOT専攻・有機デバイス工学専攻等）
- 「YUサポーティングシステム」制度による修学支援の充実
- 「山形俊才育成プロジェクト」をはじめとする各種奨学金制度の充実

・総括：中期目標の達成状況が良好である。特に、FDに関する取組、独自の奨学金制度の創設に関しては、先進的な取組を実施している。

・今後の課題・方向性：

- ①教養教育改革
- ②教員の教育力の向上
- ③在学中、卒業後まで一貫した学生支援

### 3. 研究（特色的取組、優れた成果）

#### □ 世界的研究の推進

- ・ 21世紀COE「地域特性を生かした分子疫学研究」
- ・ 山形県有機エレクトロニクスバレー構想プロジェクト
- ・ 「ナスカの地上絵」に関する研究（1学部・部門1プロジェクト）

#### □ 研究支援体制

- ・ 山形大学総合研究所の設置
- ・ 産学金連携コーディネーター制度
- ・ YU海外研究グローイングアッププログラム

- ・ 総括：中期目標の達成状況が良好である。特に、1学部・部門1プロジェクトは、他大学に例を見ない法人化当初からの独創的取組である。
- ・ 今後の課題・方向性：
  - ①研究拠点形成（大型の競争的資金の獲得）
  - ②若手研究者の育成、研究マネジメントの構築

## 4. 社会連携／国際交流（特色的取組、優れた成果）

### ○社会連携

- ・「エリアキャンパスもがみ」、星空案内人（星のソムリエ）資格認定制度などの特色的地域連携事業の実施
- ・県内全域、福島県喜多方市及び東京に地域共同研究センターサテライトを設置し、きめ細かい社会連携を展開
- ・大学コンソーシアムやまがたの活動

### ○国際交流

- ・ニューヨーク州立大学をはじめ16校と大学間協定を締結
- ・総括：①中期目標の達成状況が非常に優れている（社会連携）。特に、エリアキャンパスもがみ（ソフト型キャンパス構想）の展開は、国立大学初の試みである。
  - ②中期目標の達成状況が良好である（国際交流）
  - ・今後の課題・方向性：①社会連携推進のための体制整備、コンソーシアムの拡充
  - ②短期留学生を中心とした学生交流促進

## 5. 附属病院（特色的取組、優れた成果）

---

- 医師国家試験合格率は、国立大学で1位（平成19年度）
- 「総合医学教育センター」の設置による、医学教育、卒後臨床研修、後期研修、生涯教育の一環した教育支援体制の充実
- 附属病院再整備事業の推進
- 日本の大学で初めて「がんセンター」を設置
- 医師や看護師の処遇改善（インセンティブ付与、保育所設置）

- ・ 総括：中期目標の達成状況が良好である。特に、医師養成に向けた教育体制、病院長のリーダーシップによる経営努力（経営改善係数の影響なし）は高い評価である。
  - ・ 今後の課題・方向性：
    - ①附属病院再整備事業の推進
    - ②がん・地域医療等社会的要請の強い医療の推進
-

## 6. 附属学校（特色的取組、優れた成果）

---

- 平成17年度に大学附属に変更
- 全学的教育実習の推進
- 共同研究の推進（大学との共同研究部会）
- 少人数教育の研究（文部科学省委託事業）
- 安全管理の徹底

- ・ 総括：中期目標の達成状況がおおむね良好である
  - ・ 今後の課題・方向性：
    - ①学校教育の研究と実証の継続
    - ②教育実習の受入促進
-

## 7. 業務運営の改善（特色的取組、優れた成果）

- 学長のリーダーシップ（学長マニフェスト、結城プラン）
- 教育研究施設の充実（高等教育研究企画センター等）
- 大学運営機能の充実（新事務組織（YUユニット制）、教育研究評議会の構成人数変更、副学部長制導入、EM室、評価分析室等）
- 教職員の人材育成制度の充実（FD研修、海外研修、SD研修、ジョブローテーション、大学院派遣、職員評価等）

- ・ 総括：中期目標の達成状況が良好である。特に、EM室等学長直属組織の設置は、上手く機能してきた。
- ・ 今後の課題・方向性：事務組織再編・教職員の人材育成を通じ、「学生が主役」となる大学運営の基盤を確立する。



## 8. 財務内容の改善（特色的取組、優れた成果）

- インセンティブに配慮した予算編成
- 外部資金の獲得増（平成19年度約12億、平成15年度比＋28%）
- 効率化減に沿った人件費の削減（平成19年度は10人の定員を削減し、基準額（H17人件費予算相当額）に対し△8.2%の人件費削減）
- 中期財政計画の策定
- 余裕資金の運用拡大（平成19年度は、前年度比＋2千万円）
- 財務レポート作成

- ・ 総括：中期目標の達成状況が良好である。
- ・ 今後の課題・方向性：
  - ①外部資金の獲得
  - ②継続的な業務改善による大学運営経費の抑制

## 9. 評価及び情報提供（特色的取組、優れた成果）

---

- 平成18年度に認証評価の審査を受け、全ての基準において「基準を満たしている」との評価を得た
- 経営協議会学外委員による評価を取り入れた「組織評価」を実施（評価結果に応じてインセンティブ経費を配分）
  
- 学長の定例記者会見（月2回）

- ・ 総括：中期目標の達成状況が良好である。特に、早期に認証評価を受けたことは高い評価を得た。
  - ・ 今後の課題・方向性：引き続き評価結果を活かした大学改革を推進
-

## 10. 施設・安全管理（特色的取組、優れた成果）

---

- マスタープランに基づく施設整備の推進
- 環境宣言
- ESCO事業の導入
- エコキャンパス整備支援事業の実施
- 環境報告書（2年連続「環境goo大賞奨励賞」を受賞）
- 49棟の耐震工事の実施

- ・ 総括：中期目標の達成状況が良好である
  - ・ 今後の課題・方向性：自然環境を意識し「学生主役の大学」に相応しい魅力あるキャンパスづくり
-